



もう、うなずくだけの私じゃない

水見市立比美乃江小学校6年

吉崎詩月

私は、絶対にありえないようなことを考えることがあります。宇宙は神様の水族館なのではないかとか、人が熱を出しているときは体の中で地球温暖化のようになっているのではないかとか。しかし、そのことを周りの人に話しても「何を言っているの。」とあきれた目で見られます。だけど、いつの日か誰かの手によって発見されるかもしれません。

私には、まだはつきりとした将来の夢はありません。ですが、なりたい自分分があります。それは常識にとらわれず、自分だけの世界観や考えを持った人です。

気が弱い私には、自分の意見を最後まで貫き通すなんて、怖くてできません。いつも後になってから言っておけばよかったと考えてしまいます。私は、そんな自分を変えたい。だから、クラス会議やグループ活動などの場では相手の意見も受け入れつつ、自分の考えを堂々と伝えたいです。

ところで、私はこの作文を書いていて考えたことがあります。それは自分の世界観についてです。人が考えることは違う非常識なことを考えてしまいう私は最近、普通になろうと頑張っていました。でも今は、普通ってなんだろうと自分自身に疑問を抱いていました。そして、目標をかいているうちに「自分の普通でいいのだ」と、「自分の世界を広げていいのだ」と気づくことができました。

以前、スクールカウンセラーの先生に、「ネガティブな見方をポジティブに変えると、気持ちが軽くなる」と習いました。その授業の感想として私は、「自分に自信を持つことができた」書きましたが、本当は気が弱い自分を変えたかったのです。そこで私は、まだ自分に自信を持っていないと感じました。常識にとらわれず、自分だけの世界観や考えを持ち、伝える。まちがっていてもいい。もう、うなずくだけの私じゃない。